

実践事例3 単元の後半で、考え、表現させる学習問題Ⅱづくり

授業の実際 第3学年 「はたらく人とわたしたちのくらしー店ではたらく人ー」（第10時／全14時間）

本時の目標

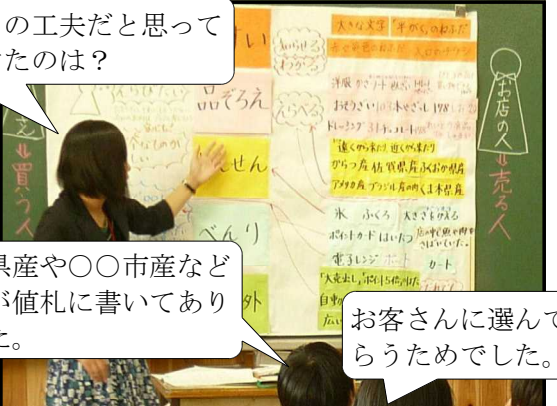
調べて分かった販売の工夫についてまとめ、スーパーマーケットの課題について、解決に向けた自分の考えとその理由を表現することができる。
（社会的な思考・判断・表現）

本時の授業の様子 ※写真資料は、著作権及び肖像権に配慮し、処理しています。

学習活動

1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてをもつ。 〈学級全体〉

新鮮さの工夫だと思って見付けたのは？




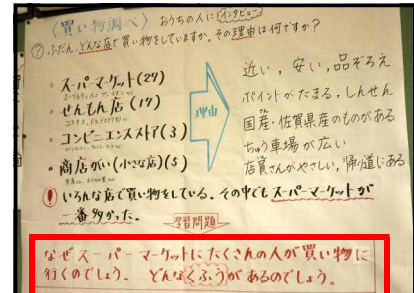
佐賀県産や〇〇市産など産地が値札に書いてありました。

お客さんに選んでもらうためでした。

児童が調べたお店の工夫をまとめた掲示物

教師の働き掛け(○)、授業改善の手立て(□)

○学習問題Ⅰを確認し、本時にその答えを出すという目的を明確にするために、教室の掲示物を使ってこれまでの学習を振り返った。





外国から運ばれてきた品物もありましたね。

学習の振り返りに使った掲示物□は学習問題Ⅰ

本時のめあて まとめたことから学習問題Ⅰの答えを考えよう。

2 販売の工夫のまとめについて、店長さんからもらったコメントをビデオで確認する。 〈学級全体〉



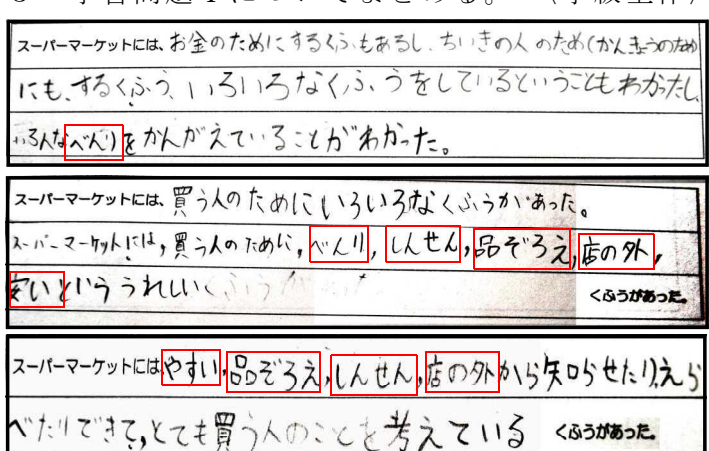
間違いありませんでした。よくまとめていましたよ。

やったあ！頑張ってよかった。

○児童が調べて分かったことを確認するために、児童の要望でまとめた内容を店長さんに見てもらったことを告げ、そのコメントを聞かせることで児童の追究活動について称賛し、充実感をもたせた。

○学習問題Ⅰの答えを導くために、売る人、買う人の言葉の確認や売る人の工夫は必ず買う人の思いや願いにつながっていたことを確認した。

3 学習問題Ⅰについてまとめる。 〈学級全体〉



スーパーマーケットには、お金のためにするくふうもあるし、ちいさな人のため(かみきょうのため)にも、するくふう、いろいろなくふうをしているということはわがたし、(お客さん)をかんがえていることがわがたし。

スーパーマーケットには、買う人のためにいろいろなくふうがあった。

スーパーマーケットには、買う人のために、(べんり)、(しんせん)、(品ぞろえ)、(店の外)、(安い)といううれしいくふうがあった。

スーパーマーケットには(やすい)、(品ぞろえ)、(しんせん)、(店の外)から(矢張り)えらべたりできて、とても買う人のことを考えている。 〈ふうがあった〉


児童がまとめたワークシートの記述□はキーワード

○学習のまとめとして、調べる視点をキーワードにして学習問題Ⅰの答えを書かせた。

[複数の情報を関連付けて考えさせ、適切に表現させる手立て]

〈キーワードにした調べる視点〉

安さ 品揃え 新鮮 便利 店の外



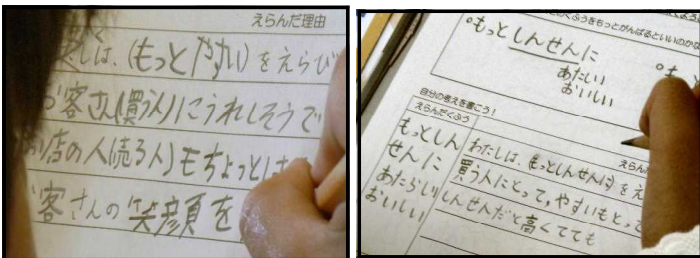
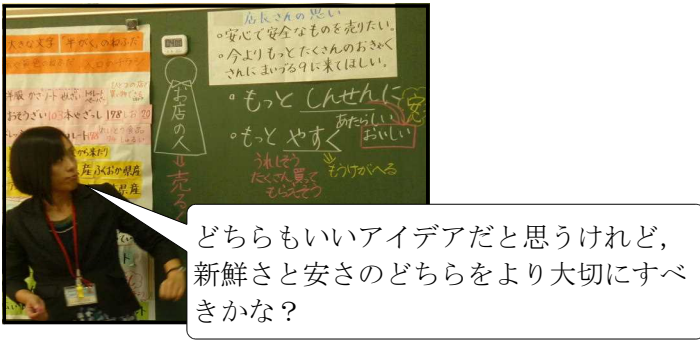
○数名の児童に発表させ、お店の工夫と買う人や地域の人の願いに関連付けられたことを称賛した。

4 店長さんの感想やこれからの店づくりへの思いについてのコメントから、学習問題Ⅱをつくる。
 〈個人・学級全体〉



〈児童の反応〉

- ・もっと品物を安くすればよい (安さの工夫)
- ・もっと新鮮な品物にすればよい (新鮮さの工夫)



児童が記述したワークシート

○店長さんからのコメントには、続きがあることを告げ、聞きたいという思いをもたせた上でビデオを見せた。

○コメントの中から解決すべき新しい課題に気付かせるために、店長さんの店づくりへの思いを板書することで課題を焦点化して考えさせた。

【問題意識をもたせる発問例】

- ・店長さんの思いは何ですか。
- ・みんなに協力できることがあるのかな。
- ・どんなアイデアが考えられる？
- ・どうすればよくなってアドバイスできるかな。

○事前の「買い物調べ」の結果を提示することで買う人の願いに目を向けさせることで、もっとお客さんを増やすアイデアがないか問い掛けた。

○児童が考えたアイデアを基に、「もっと安く」と「もっと新鮮に」の2つ工夫に絞って考えていくことを確認した。

○学習したことを振り返らせ、「新鮮さ(品質をよくする)」と「安さ(価格を下げる)」を同時に工夫することができるのかを問い掛け、どちらかをアドバイスしようと持ち掛けた。

○現時点で、自分が優先させるべきと思う工夫を選ばせ、その理由をワークシートに記述させた。

【評価】

【努力を要すると判断した児童への支援】

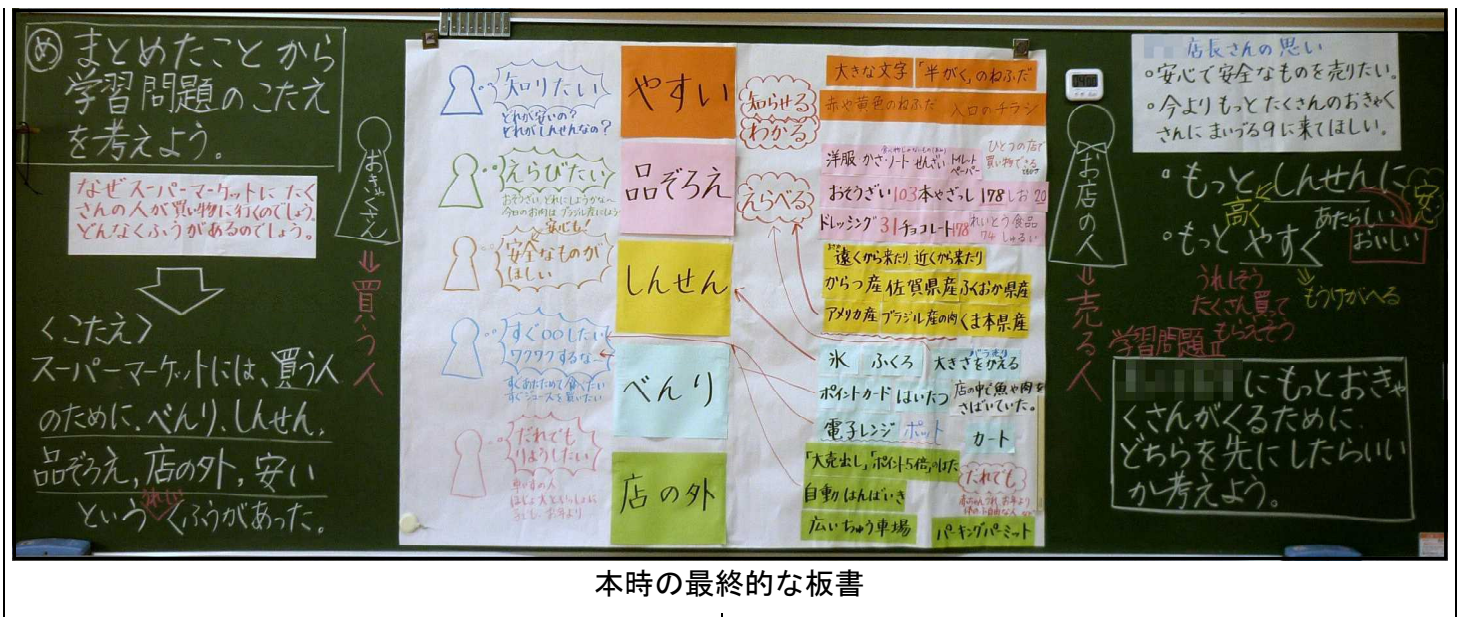
板書に書き加えた「おいしさ」や「安心」、「もうけ」、「お客さんがうれしそう」などの言葉を手掛かりにさせ、自分が優先させるべきと思う工夫を選ばせ、選ぶ決め手となった言葉をキーワードにして理由を書かせた。

○意図的に異なる意見の児童に発表させ、選択が分かれたことを確認し、児童がそれぞれの理由を比較し始めたところで、再度、どちらがよいかを問うことで、もっと調べたい、比べて考え直したいという発言を引き出し、児童の言葉を用いて学習問題Ⅱをつくった。

児童と共につくった学習問題Ⅱ「調べたスーパーマーケットにもっとお客さんが来るために、どちらを先にしたらいいか考えよう。」

5 本時の振り返りと次時の見通しをもつ。
 〈学級全体〉

○学習問題Ⅱに対する自分の考えを次時から深めていくことを確認し、もっと調べたいことはないかを問い掛け、「もう一度お家の人にインタビューをする」や「他の店も調べて見る」などの意見を基に、これからの学習計画を立てた。



本時の最終的な板書

本時の成果と課題 ○…成果、●…課題

- 学習問題Ⅱについて考えたことを適切に表現させるために意思決定を迫った。その際、2つのアイデアに絞り、販売者の立場で新鮮さと安さの視点から考えさせたことで、3年生の児童でも自分の言葉で理由付けをしながら自分の考えを記述することができていた。このような活動を繰り返すことで児童の表現力を高めることができると考える。
- 学習問題Ⅰの追究活動をまとめさせる際に、調べて分かったことや考えたことを児童の言葉を使って図に整理したことで、店の工夫とお客さんの願いとの関連が視覚化でき、児童が複数の情報を関連付けて考える手掛かりになったと考える。
- 学習問題Ⅰのまとめを記述させる際に、キーワードを使って書かせたが、キーワードが5つあったために、児童が総合して考えることに難しさを感じていた。キーワードとなる言葉を選択させたり、焦点化させるための問い掛け、問い返しを行ったりする必要がある。
- 学習問題Ⅱをつくる際に、店長さんからのコメントのビデオを基に問題意識を醸成しようと考えたが、児童が考えたいという意識より、店長さんが言っているから考えなくてはならないという使命感が強くなってしまったようである。児童の考えに問い返し、より多くの考えを出させたり、他店の資料を提示して比較させたりするなど、児童が新たな問題を発見できるようにする手立てを工夫する必要があったと考える。